

Annual Report

KANSAI MEDICAL UNIVERSITY MEDICAL CENTER
Department of Vascular Surgery



KANSAI MEDICAL UNIVERSITY MEDICAL CENTER

令和2年度 成績報告

関西医科大学総合医療センター 血管外科

1. 手術統計

手術件数	391例	膝窩動脈瘤	3例
動脈手術	103例109肢	腎動脈瘤	2例
①閉塞性動脈硬化症	36例/41肢	④その他	14例
腸骨(大腿)-大腿動脈交叉バイパス術	3例	(下肢切断4例(AK2, BK1, minor1)、気管切開3例、創離開デブリ2例、縫工筋皮弁、感染グラフト抜去、リンパ漏、医原性AVF閉鎖、胃-空腸バイパス術〔SMA症候群〕各1例)	
うち血管内治療追加施行	2例		
大腿-膝上膝窩動脈バイパス術	3例4肢		
うち血管内治療追加施行	1例2肢		
大腿-膝下膝窩動脈バイパス術	3例		
うち他の手術に追加施行	1例		
腸骨-下腿動脈バイパス術	1例	下肢静脈瘤手術	70例
膝窩-下腿動脈バイパス術	1例	①ストリッピング術	4例
大腿-足部動脈バイパス術	3例	②血管内焼灼術	62例
膝窩-足部動脈バイパス術	6例	③その他(高位結紮など)	4例
鎖骨下-両側大腿動脈バイパス術	2例		
大腿動脈血栓内膜摘除術	12例15肢	バスキュラーアクセス手術	136例
うち他の手術に追加	2例	①内シャント造設術	63例
うち血管内治療追加	8例	②人工血管シャント造設術	9例
		③尺側皮静脈転移シャント造設術	7例
血管再生治療	2例	④静脈-静脈バイパス	2例
		⑤動脈表在化	2例
②急性動脈閉塞	8例	⑥永久留置カテーテル挿入	4例
下肢血栓除去術	5例	⑦シャント瘤切除	1例
下肢血栓除去術+PTA	3例	⑧シャント感染	3例
		⑨シャント閉鎖	1例
③動脈瘤	45例(+1肢)	⑩シャント血栓除去	3例
胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術	6例	⑪シャントPTA	39例
うち破裂	2例	⑫その他	2例
Zone 1:	3例	(静脈形成術、banding各1例)	
うちchimney+debranch	2例		
Zone 3:	1例	血管内治療	82例
下行:	2例	①経皮的血管拡張術/ステント留置術	70例
腹部大動脈瘤人工血管置換術	10例	②IVCフィルター留置および抜去	10例
腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術	23例	③EVAR後エンドリークコイル塞栓術	2例
うち同時コイル塞栓	4例	血管造影検査	45例
うち破裂	4例		
大腿動脈瘤(EVARと同時手術)	1例2肢		

2. 手術成績

動脈バイパス術	手術死亡 0例、入院死亡 2例	血管内治療	死亡例、合併症 0
①75歳男性:人工血管感染にて再手術行っても敗血症にて術112日後に死亡		初期成功率 92%	
②85歳男性:下腿バイパス術後感染から出血し、肺炎にて術55日後に死亡		大動脈瘤	死亡例、合併症 0
バイパスグラフト 早期閉塞	3例	静脈瘤・バスキュラーアクセス手術	死亡例、合併症 0
末梢動脈不良で2例、感染からの出血で1例			

3. トピックス

●COVID-19診療

令和2年度はCOVID-19に追われた一年でした。ご存じのように総合医療センターは新型コロナの大阪府重点医療機関として日夜患者を受け入れています。現在重症病床28床、中等症病床24床を、主に救命部が主体に運用しています。コロナ出現以来入院患者はのべ400名以上、うち挿管が必要な患者は200名にのぼります。我々血管外科医も毎週火曜日のコロナ接触者外来を交代で担当しています。また正月休みには坂下講師が一日出勤し、コロナ外来を手伝いました。コロナに対する診療はどのような専門であっても医師として従事するのが当然ではありますが、かといって血管診療をおろそかにすることもできません。今後も続くであろうコロナ診療をうまくバランスをとり、もちろん自分たち、家族たちの健康も守りながら続けていかなければならないと思います。

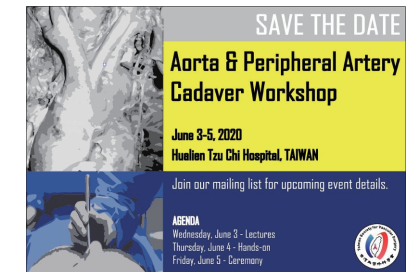


●病院経営に貢献

上記のようなコロナ禍のなか、当院でも通常疾患の外来患者数の減少、手術症例の制限などで、病院経営が以前より困難となっています。その状況下で、我々血管外科は人件費も込みの原価率で88%と院内トップレベル、血管外科病床稼働率は126%、平均在院日数は9日と、営業的にも非常に良好な数字をあげ、病院経営に貢献しています。コロナ禍において良性疾患や不要不急の手術を制限しても手術数は296例(2020年)と、前年に比べ7%増加しております。これは、地元の医療機関からの信頼の証であり、血管外科疾患はどのような状況であっても診療しなければならない領域であることを改めて感じた次第です。このことを肝に銘じ、今後も努力を続けてまいります。

●台湾血管外科学会 cadaver workshop、韓国VESSELシンポジウムにWeb講演で参加

コロナの影響で国内外学会、研究会が中止、延期、Web開催となり、他医療機関医師との直接対面交流がなく、寂しい1年となりました。しかし毎年交流のある台湾、韓国の血管外科から本年度も依頼があり、駒井が講演を行いました。台湾では特殊な処理をしたご遺体を使用する手術セミナーを開催しており、そこで血管の剥離の仕方などを伝授する講演を行いました。Webを通して行ったところ、電波状況が悪く初めての経験であり、あまりスムーズとは言えないものでしたが、評価は非常に高く、うれしい限りでした。また同様にWebを通じて韓国にも講演を届ける機会があり、医学のみならず両国の友好関係に微力ながら貢献できたかと自負しております。来期は世界のdistal bypassのコンテスト的な催し物も学会では考えており、国際委員のひとりとして世界のバイパス術の技術向上にも寄与していきたいと考えております。



●日本血管外科学会総会で2つの共催セミナー(ランチョンセミナー)担当

国内学会もほとんどがWeb開催となる中、学会中の共催セミナー(ランチョンセミナー)は、日頃の活動を幅広く伝えることができ、また依頼されることが施設の学会内での評価のバロメーターとなる貴重なイベントです。本年度の我々の領域の中心的な学会である第48回日本血管外科学会は2020年11月にWeb開催されましたが、ここで当科駒井が2企業からの依頼を受けて共催セミナーの講演を行いました。一つは近年注目されている静脈血栓症に対し、施設ぐるみで取り組むためのシステム作りをご紹介しました。もう一つは近年開発され、臨床に

応用された血管再生療法の遺伝子治療薬の使い方をご紹介します。このように企業から依頼され共催セミナーを受け持つことは、駒井一人の力ではなく医局員全員の努力が評価されているものと思っております。それを支える地域の医療機関との連携も大きな後押しとなっていることも間違いありません。今後も地域医療を軸として血管診療に取り組む姿勢を保ってまいります。

●河野医師が日本心臓血管外科学会併設研究会にて最優秀演題受賞

日本心臓血管外科学会開催時に毎年行われるPeripheral artery surgical meeting (PASM) にて当科・河野(旧姓:山本)暢子医師が最優秀演題を受賞しました。この研究会は全国の末梢動脈疾患の専門医たちが集うコアな研究会であります。毎年有名施設が最優秀賞を獲得しており、いつか当科も受賞できるようにと皆で目標にしてきたものだけに、河野個人だけではなく当科全員の喜びでもありました。

●河野医師が最優秀論文賞を獲得

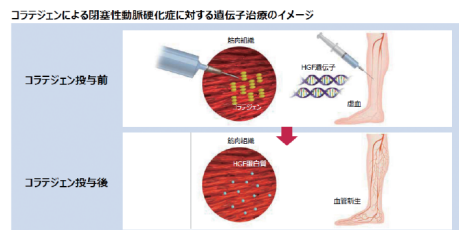
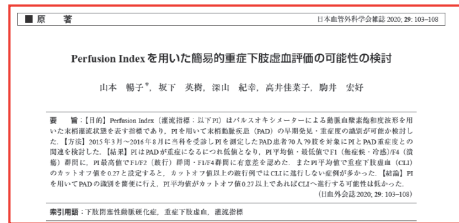
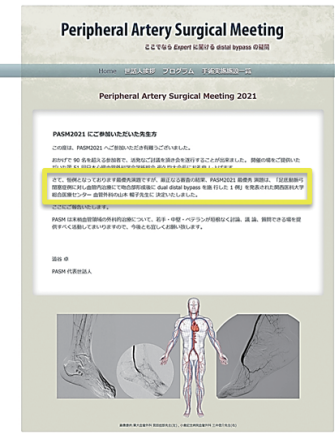
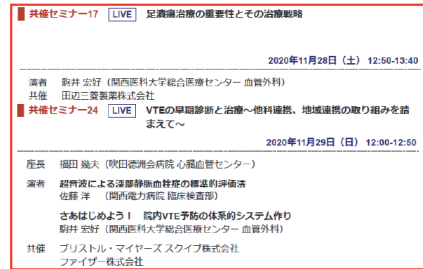
同じく河野医師が今期執筆、発表した論文「Perfusion Indexを用いた簡易的重症下肢虚血評価の可能性の検討」(日本血管外科学会雑誌 2020; 29: 103-108 DOI https://doi.org/10.11401/jsvs.19-00069) が令和2年度日本血管外科学会雑誌最優秀論文に選出されました。PIという新しい指標で閉塞性動脈硬化症患者の重症度をベッドサイドで簡易的に診断できる画期的な方法の報告です。現在社会人大学院生の河野医師はその地位にふさわしく学問的に非常にがんばってくれています。若手の見本ともなっており、また女医としてのロールモデルともなるべく活躍です。今後も期待しています。

●駒井がWFVS Councilorに

今年度より当科・駒井が日本血管外科学会からの代表理事としてWORLD FEDERATION OF VASCULAR SOCIETIES (WFVS) の会議に参加しています。アメリカ、ヨーロッパ、アジア、オセアニアなど世界の血管外科学会の連携を目的とした世界規模の連合の会議で、日本からは2人の理事が出席することとなっています。コロナの影響で本年度の会議はWeb上で、となりましたが、世界の血管外科医とのコミュニケーションを日本の代表として取っていく所存です。

●新しい血管治療の実施

近年開発された血管再生治療を、当科も2021年3月より開始いたしました。これは血管新生を促すHGFという物質をプラスミドベクターにて虚血筋肉内に注入する遺伝子治療です。世界初のタイプの薬剤だけに当院では関係各診療科、薬剤部などと慎重に導入を準備してまいりました。決して「夢の薬」ではなく、症例をしっかり吟味して適応を決めないと効果がない薬剤ですが、血行再建ができず、潰瘍が治らずに困られている患者に対しての最後の望みです。うまく適材適所に使用して重症患者の治療オプションのひとつとして育てていきたいと考えています。



4. 研究

①論文 ◆原著

- 山本暢子、坂下英樹、深山紀幸、高井佳菜子、駒井宏好
Perfusion Indexを用いた簡易的重症下肢虚血評価の可能性の検討
日血外会誌 2020 29;103-8.
- 三井信介、重松邦広、東 信良、石田敦久、井上芳徳、内田 恒、大木隆生、隈 宗晴、黒澤弘二、児玉彰朗、駒井宏好、古森公浩、渋谷 卓、進藤俊哉、杉本郁夫、出口順夫、保科克行、前田英明、緑川博文、山岡輝年、山下裕也、柚木靖弘、宮田哲郎、高橋 新、宮田裕章 日本血管外科学会JCLIMB委員会 2018年JAPAN Critical Limb Ischemia Database (JCLIMB) 年次報告 日血外会誌 2020 29; 365-393
- 大木隆生、東 信良、鬼塚誠二、尾原秀明、工藤敏文、駒井宏好、重松邦広、田中克典、前田剛志、宮田哲郎、古森公浩
日本血管外科学会ガイドライン委員会 ガイドライン解説 ヨーロッパ血管外科学会・腸間膜動脈疾患ガイドラインを要旨日本語訳版 日血外会誌 2020 29; 303-318.

②学会発表その他 【国際学会】

- Nobuko Yamamoto, Hiroyoshi Komai, Hideki Sakashita, Noriyuki Miyama, Kanako Takai, Masato Ono, Yuka Kitaoka, Masatsune Ogura, Atsutoshi Hatada, Nobuhiro Tanimura, Takashi Nakamura, Masato Yoshida, Takayuki Kawaura, Tomomi Kitawaki. Lipid metabolism may not be associated with the progress of critical limb ischemia: The PROLIFERATION study; Multicenter cross-sectional study in Japanese PAD patients. The 21st Asian Society for Vascular Surgery (Web) Seoul Korea 2020

【総会】 ◆特別発表

- 駒井宏好
コメンテーター パネルディスカッション2「難治性静脈性潰瘍の治療」
第40回日本静脈学会(Web) 秋田 2020
- 深山紀幸、北岡由佳、大野雅人、山本暢子、坂下英樹、駒井宏好
シンポジウム5 Global Vascular Guidelineを踏まえた治療戦略 包括的高度慢性下肢虚血に対する治療戦略としてGlobal Vascular Guidelinesは有用か?
第51回日本心臓血管外科学会 (Web) 京都 2021

◆一般発表

- 坂下英樹、善甫宣哉、桑内慎太郎、岡田隆之、細野光治、金本真也、湊 直樹、川副浩平
C-TAGアクティブコントロールシステムはarch TEVARを変えるか?
第50回日本心臓血管外科学会 (Web) 福島 2020
- 坂下英樹、山本暢子、大野雅人、北岡由佳、駒井宏好
感染症並存症例に対する尺側皮静脈転位内シャントによるバスキュラーアクセス造設
第40回日本静脈学会 (Web) 秋田 2020
- 北岡由佳、山本暢子、坂下英樹、高井佳菜子、駒井宏好
経時的に増大した大伏在静脈Venous aneurysmの1例
第40回日本静脈学会 (Web) 秋田 2020
- 山尾 順、奥野雅史、吉田和正、駒井宏好
謝って下肢静脈瘤の手術治療をしなくなった皮下滑液包の一例
第40回日本静脈学会 (Web) 秋田 2020
- 深山紀幸、善甫宣哉、植月友彦、桑内慎太郎、岡田隆之、細野光治、金本真也、湊直樹、川副浩平
B 型大動脈解離に対する胸部ステントグラフト内挿術: 慢性晩期症例に対してリエントリー閉鎖追加によるリモデリング効果の検討
第61回日本脈管学会 (Web) 仙台 2020
- 坂下英樹、山本暢子、大野雅人、北岡由佳、駒井宏好

- 中心静脈病変によるバスキュラーアクセス関連静脈高血圧症に対するバイパス術
第61回日本脈管学会 (Web) 仙台 2020
- 深山紀幸、善甫宣哉、桑内慎太郎、岡田隆之、細野光治、金本真也、湊直樹、川副浩平
Outcomes of TEVAR with single-chimney technique for aortic arch aneurysms
第48回日本血管外科学会 (Web) 東京 2020
 - 山本暢子、坂下英樹、深山紀幸、高井佳菜子、駒井宏好
ヘパリン使用 ePTFE 人工血管による大腿一膝窩動脈バイパスの経験
第48回日本血管外科学会 (Web) 東京 2020
 - 高井佳菜子、駒井宏好、坂下英樹、深山紀幸、山本暢子
軽症末梢動脈疾患患者に対する動脈硬化性疾患スクリーニングの試み(第二報)
第48回日本血管外科学会 (Web) 東京 2020

◆座長 ●駒井宏好

- パネルディスカッション7 多臓器動脈硬化性疾患合併例に対する治療戦略: 同時、異時手術、そして順序
第50回日本心臓血管外科学会 (Web) 福島 2020
- パネルディスカッション3 Polyvascular diseaseの診断・治療への取り組み(院内連携・病診連携)
第61回日本脈管学会 (Web) 仙台 2020
- 一般口述発表 PAD 1
第61回日本脈管学会 (Web) 仙台 2020
- CVTセッション 包括的高度慢性下肢虚血(CLT)におけるチーム医療
第48回日本血管外科学会 (Web) 東京 2020
- 一般口演 Oral Presentation 4 下肢(下腿A)
第48回日本血管外科学会 (Web) 東京 2020
- 教育講演2
第51回日本心臓血管外科学会 (Web) 京都 2021

●深山紀幸

- 一般口演 Oral Presentation 10 malperfusion
第48回日本血管外科学会 (Web) 東京 2020

【地方会、研究会】

- 坂下英樹、北岡由佳、大野雅人、山本暢子、駒井宏好
治療方針決定に難渋した急性大動脈解離で発見された巨大腹部大動脈瘤の一治験例
第15回Japan Endovascular Symposium (Web) 東京 2020
- 山本暢子
足底動脈弓閉塞症例に対し血管内治療にて吻合部形成後にdual distal bypassを施行した1例
Peripheral Artery Surgical Meeting 2021 (Web) 京都 2021

③講演

●駒井宏好

- Graft preparation, anastomoses targets selection, and exposure of target vessels.
TSVS 2020 Aorta and Peripheral Artery Cadaver Workshop (Web) Hualien, Taiwan 2020.6.3
- 足潰瘍治療の重要性とその治療戦略
田辺三菱製薬 末梢循環Webセミナー (Web) 2020.9.3
- レミイト静脈弁カッターを使用したDistal Bypass術
LeMaitre Online Vascular treatment Education (Web) 2020.9.24
- コロナ時代の血栓塞栓症: 予防と早期発見の重要性
エリキュースインターネット講演会 講演II(Web) 2020.9.30
- 大動脈・末梢動脈疾患の診断と治療
第47回CVT認定WEB講習会 (2020年度血管無侵襲診断WEBセ

ミナー) 2020.11.5

6. 足潰瘍治療の重要性とその治療戦略
第48回日本血管外科学会共催セミナー 17 (Web) 2020.11.28
7. さあはじめよう! 院内 VTE 予防の体系的システム作り
第48回日本血管外科学会共催セミナー共催セミナー 24 VTE の
早期診断と治療 ~他科連携、地域連携の取り組みを踏まえて~
(Web) 2020.11.29
8. Challenge to improve the early result of bypass operation in
CLTI patients.
VESSEL 2020 SAM PAD (international session) (Web) Seoul
2020.12.12
9. 虚血性足病変の最新の治療方針からみた紹介のタイミング
田辺三菱製薬 CKDミーティング (Web) 2021.2.6
10. 見過ごしてはいけない下肢の腫脹: エコーによる静脈血栓症の
診断と治療日常診療に活かすエコー
Webセミナー~疼痛管理と血栓症~ (Web) 2021.2.17

<当科医局員出張、外勤先 (定期、不定期を含む)>

1. 関西医大香里病院 (寝屋川)
2. 関西医大附属病院 (枚方)
3. 関西医大くずは病院 (枚方)
4. 暖生会脳神経外科病院 (四条畷)
5. 交野病院 (交野)
6. 吉田病院 (枚方)
7. 小野山診療所 (守口)
8. 大阪赤十字病院 (天王寺区)
9. 羽原病院 (泉佐野)
10. 森小路清水会クリニック (旭区)
11. 寝屋川生野病院 (寝屋川)
12. いぶきクリニック (門真)
13. 大野記念病院 (西区)
14. 宝持会池田病院 (東大阪)
15. 恵生会病院 (東大阪)

本年度はコロナで始まり、コロナで終わる、という年でした。国内外学会、研究会、講演会もすべて中止、延期、Webとなり、人と会えない寂しい1年でした。血管診療はおかげさまで、つつがなくこなせましたが、この文章を書いている今現在、大阪は第4波の真っ最中で大変です。人がばたばた亡くなっていく海外でのニュースをみて、どうかこの日本ではこのようなことが起こらないように、と願うばかりです。ワクチンが普及しても大事な自分自身の体力、免疫力だと思います。医師自身が自分の健康を真剣に考え、守らなければならない時代だと感じました。皆様もどうぞご自愛ください。

本年は私も含めて論文執筆が少なかったことが反省点です。私はかねてから「医学の仕事は発表のみではだめで、活字となって発信してこそ皆が利用できるいい仕事となる」との信念でやってきました。医局員ともどもコロナでの外出自粛を利用して、日頃溜めていた仕事をこなすよう努力いたします。

臨床では、コロナ禍のなか、医局員がよく働いてくれたおかげで、症例数、成績とも満足のいく数値を出せました。私は、というと手術はほとんどを医局員に任せ、患者の外来窓口や学会活動、関西医大の広報活動に勤しむようになりました。この時代、世間ではいろいろな問題が生じていますが、このような苦難を乗り越えるために必要なリーダー像を考えるようになりました。結果、以下の要件を満たすものがリーダーに相応しいのではないのでしょうか? 「人間的、友好的、積極的、先進的、論理的、そして親分的」人物です。

還暦を迎え、外科医もメスを置くべき年齢であることをひしひしと感じ、また有能な医局員に恵まれた幸運を感じる日々です。良きリーダーになれるようこれからも精進するつもりでおります。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

令和3年夏

関西医科大学総合医療センター 血管外科
教授 駒井 宏好